

## 実践団体情報

記入日	2020年1月14日（2019年度のチャレンジプラン）
実践団体名	ミラクルウィッシュ
代表者名	益田紗希子
プラン全体のタイトル	子育て中のママが防災・減災をキーワードにつながる親子の防災部
電話番号	090-4038-5270
メールアドレス	mwish2014@yahoo.co.jp
実践団体の説明	2014年1月、兵庫県三田市にて乳幼児を育てるママが集い「子育てしやすい街『三田』をもっと楽しみたい」「三田での子育てに小さなミラクルを起こしたい」と活動を開始。「こんな事をしてみたい、あったらいいな」ということを仲間で共に考え具現化することで、「地域で支えあえる人との出会いや支えあいの仕組みづくり」の場を作り、「さんだ女子防災部」の他、ママのやりたいことを応援する「ミラクルママ講師」、子どもたちがお金の仕組みと大切さを体感できるイベント「子ども店長」等を企画開催し、三田市のみならず兵庫、大阪と地域貢献に努めている
所属メンバー	代表：益田紗希子 事務：板東里奈・大前美寿々 メンバー：小山阿弥 他
活動地域	兵庫県三田市、尼崎市、神戸市北区、丹波篠山市 大阪府吹田市、池田市、箕面市、大阪市阿倍野区
活動開始時期・結成時期	2014年1月
過去の活動履歴・受賞歴	2017年三田市協働事業 2018年県政150周年記念件民連携事業

プラン全体の概要	<p>2017年に「さんだ女子防災部」を設立し、三田市と協働で事業を行い、2018年は自主事業として活動しましたが、なかなかコミュニティとしての広がりが見えていない現状を真摯に受け止め、今回こちらのプランを活用させていただくことにより、更に一人ひとりの防災意識が高まるコミュニティを作っていきたいと考え応募させていただきました。地域の特性を理解し、地域に根差した「子育て中の母親の視点から考える防災コミュニティ」をつくることで、母親たちが安心・安全な子育てを行うことができるだけでなく、隣人との人間関係、助け合いの気持ちが希薄化している現代社会において、隣人の顔を見ながら共に、子育てやまちづくりのできる環境を整備することで、災害時に正しい行動ができる仲間の輪づくり、地域づくりに努めていきたいと考えました。三田市は通勤族も多く、昔からの地域住民に加え、特に子育て世代は他市・他府県より夫の仕事の都合で移り住んでくる家庭が多いのも特徴です。孤立した子育てにならないためにも、その他地域での防災への関心がある場所に出向いていき、三田のみならず関西での「防災」をキーワードに、たくましく生き抜けるママコミュニティを育てます。</p>
----------	--

## プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	① 三田市消防大会 ② 阿倍野区ふらっとひろば ままちっちにて防災講座	① 防災グッズ・パネルの準備 ② 講座の告知・参加者募集	① 30名近くの親子が立ち寄ってくださり、啓発することができた ② 10組の乳幼児親子が参加。実際大阪北部地震の話なども交えお話し。
5月	③ 三田市防災・減災フェスティバル ④ 尼崎キューズモールにて 防災講座	③ お菓子ポーチワークショップ準備 ④ 講座の告知・参加者募集 尼崎の地震に関する情報を市役所に問い合わせ	③ 150名の方がブースへ立ち寄り20名がワークショップを行う ④ 9組の親子が参加。防災グッズに興味深々でした。
6月	⑤ 阿倍野区パラコードブレスレットづくり ⑥ 阿倍野防災センタータスカル見学 ⑦ 箕面キューズモールにて 防災講座 ⑧ 三田市サークルオハナプロジェクトにて 防災講座 ⑨ オハナフェスにて子どもの 防災リュックの展示	⑤ 防災士増田氏への依頼・講座の告知・参加者募集・会場手配 ⑥ 見学の予約・会場下見 ⑦ 講座の告知・参加者募集 ⑧ 参加者が聞きたい内容を事前にヒアリングする ⑨ こどもにとってあるといい防災グッズを準備	⑤ 15名の親子が参加。パラコードを作りながら、防災に役立つ情報などを提供。小学生以下の子どもさんは「きけんはっけん」ゲームをし、防災シュミレーションをする。 ⑥ 5組の親子参加。地震の体験により、より備えについて考えられた。 ⑦ 10組の親子が参加。今回パパの参加も多くみられた ⑧ 5人のママが参加。三田市の防災と備蓄についてお話ししました。 ⑨ 展示し、来場者さんへ啓発。
7月	⑩ 尼崎キューズモール 七夕まつり 防災ブース 出展 ⑪ 三田市液体ミルク試飲と 身近なものが災害時役に 立つワークショップ	⑩ 100均防災グッズを新たに追加する。アレルギーマーク使用許可をとる ⑪ 防災士釜淵氏に講師依頼。 三田市から液体ミルク提供	⑩ 20名の方が立ち寄ってくださり、アレルギーマークを防災リュックに着けることをご存知ない方もたくさんいた。 ⑪ 腹帯・ビニール袋を活用体験。液体ミルクをがぶがぶ飲んでいたお子さんが印象的だった。
9月	⑫ 池田市男女共生サロン事業にて 防災講座	⑫ 担当者との打ち合わせ・池田市の危機管理課への災害予測などを問い合わせる	⑫ 5組の親子が参加。トイレの備蓄やサバイバルシートの体験

	<p>⑬ パナソニックスタジアムにて防災ブース出展</p> <p>⑭ 吹田 JC 主催防災イベントにて防災ブース出展</p> <p>⑮ 住之江区主催子供向け防災ワークショップ</p>	<p>⑬ a化米の試食・液体ミルク・防災クイズの準備</p> <p>⑭ 吹田危機管理課にa化米・防災クイズ手配</p> <p>⑮ ぼうさいまちがいさがしの練習・パラコードブレスレット準備</p>	<p>⑬ 50名以上の方にクイズに答えてもらい防災について考えてもらう機会ができた。</p> <p>⑭ a化米のおにぎりを200個配布。たくさん子どもたちがクイズに回答してくれた</p> <p>⑮ 20人以上の小学生が参加。</p>
10月	⑯ オンライン防災講座	⑯ 事前募集・参加者のニーズ調査	⑯ 8名の関東・関西・中部・四国のママが参加
11月	<p>⑰ 三田市ミラクル親子パーク in さんだにて防災講演会</p> <p>⑱ あべの親子防災部キックオフ 防災どうしてる？おしゃべり会</p> <p>⑲ 三田市防災訓練</p> <p>⑳ 千里子どもメディカルラリーにて小学生向け防災クイズ・a化米の試食</p> <p>㉑ 兵庫防災フェスタにて乳幼児向け防災講座</p>	<p>⑰ 辻由起子氏に講師依頼、飲むご飯の試食準備、ブースの展示準備。</p> <p>⑱ 出た意見をまとめるために模造紙やペンや付箋を準備。事前募集</p> <p>⑲ 事前準備なし</p> <p>⑳ クイズの準備・試食の準備</p> <p>㉑ 主催者との打ち合わせ、トイレの備蓄についての準備</p>	<p>⑰ イベントとの同時開催で1200名の来場者。ボランティアの高校生にもかかわってもらったこともよかった。</p> <p>⑱ 10組の親子が参加。たくさん意見がでて、今地震が起こったらという想定で避難訓練もしました。</p> <p>⑲ 段ボールベッドや簡易トイレ炊き出しなどを体験</p> <p>⑳ 80名の4年生～6年生にクイズ、試食をしてもらう。</p> <p>㉑ 10組の親子が参加。簡易トイレの体験や防止グッズの紹介をした。</p>
12月	⑳ いけだ防災フェスタにて防災ブース出展	⑳ 防災グッズの準備、掲示用ポスター準備	⑳ 60名以上の方がブースに立ち寄ってくださり防災グッズをみてくれた。
1月	<p>㉒ あべの親子防災部 非常食体験</p> <p>㉓ 尼崎大原クリニックにて妊婦さん向け防災講座</p> <p>㉔ JCOMにて防災グッズ等の啓発</p>	<p>㉒ 非常食の準備、参加者を事前に募集</p> <p>㉓ 担当者との打ち合わせ、液体ミルクの試飲準備</p> <p>㉔ 担当者と打ち合わせをし、スタジオにて事前に撮影</p>	
2月	㉕ 阿倍野区子育て連絡協議会にて防災講座	㉕ 担当者との打ち合わせ、a化米・液体ミルクの試食準備	

	⑳ 大阪にて関西防災部交流会	㉑ 16 団体が集まり、活動紹介、抱えている悩みや問題などを共有	
3月	㉒ あべの防災フェスタ出展 ㉓ ミラクル親子パーク in 篠山防災啓発ブース ㉔ ままちっち festa 防災啓発ブース	㉕ 担当者との打ち合わせ避難所体験準備 ㉖ 防災グッズの展示、ビニール袋でカップづくり準備 ㉗ 防災グッズ展示物・防災クイズ準備	

プラン全体の反省点・課題・感想	<p>プランの計画とは大きく変わってしまったが、乳幼児が集まるいろいろな場所でお話しをすることができ、ママたちの不安や、知りたいを一緒に考える場をたくさん作ることができた。一緒に活動したいといってくれるママたちや新たに防災部も立ち上げることができたことも、このプランにチャレンジしたからできたことだと感じている。今後の課題としては、ママ防災団体と連携していく事、乳幼児親世代に特化した防災情報発信サイトの運営をしていこうと思っている。</p>
今後の活動予定	<p>乳幼児に特化した防災情報サイトを作り、運営していく。 他の防災部との連携を図る 今年度同様いざという時に備えた講座やイベントを定期的 に開催していく。 三田市や大阪市阿倍野区の行政との連携を図る。</p>

## 実践したプランの内容と成果

記入日	2020年1月14日（2019年度のチャレンジプラン）
実践団体名	ミラクルウィッシュ
実践番号	1
タイトル	子育て中のママが防災・減災をキーワードにつながる親子の防災部
実践担当者のお名前	益田紗希子

実践にかかった金額	30万円未満
実践の準備にかかった時間	数ヶ月
実践活動を実施した日時	2019年4月7日～2020年3月28日
実践の所要時間	30日×2時間＝60時間
実践の運営側で動いた人の人数	25人
防災教育の対象者の属性	幼児/保育園児/幼稚園児・小学生（低学年）・小学生（高学年）・中学生・高校生・大学生・保護者/PTA・地域住民・社会人/一般・女性・障・防災関係者・全ての人々・
防災教育の対象者の人数	約2000人
実践を行った都道府県と市区町村	大阪府大阪市・吹田市・箕面市・池田市 兵庫県三田市・尼崎市・神戸市・丹波篠山市
実践を行った具体的な場所	三田市総合福祉保健センター ふらっとひろば ままちっち キューズモール 等
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	防災グッズ（100均にあるもの）書籍（防災トイレについて）きけんはっけん まちがいさがし

達成目標	孤立しがちな子育て中の特に乳幼児を育てる保護者向けの講座やブースでの防災啓発をすること。たくさんの親と出会い、防災にアンテナを立ててもらい、意識をしてもらうことに注力した。
------	--

<p>どの力を身につけようとしたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>大いに</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>実践内容・方法</p>	<div data-bbox="491 385 1433 616"> </div> <p>・防災に関心のない方や、やろうとは思っているけどなかなか行動に移せない子育て中の保護者に対して、地域の楽しいイベントの中での防災啓発ブースを出展したり、自主開催の講座・講演会はもちろんですが、ママサークルや商業施設で防災講座をさせてもらうよう働きかけエリアを超えて開催させていただきました。</p> <div data-bbox="491 788 1433 1041"> </div> <p>・参加したママが紹介してくれ別の団体への防災講座を開催するという、口コミでの防災講座のオファーも多くいただくことができ、ニーズのあるところには手弁当で講座をさせてもらいに行かせていただきました。</p> <div data-bbox="491 1160 1433 1422"> </div> <p>・11月4日に行ったミラクルウィッシュ主催の「ミラクル親子パーク in さんだ」ではイベント最初に防災講演会を企画し、主催者・運営者・出展者・子ども達・来場者全員が参加できるものを企画しました。そうすることで、関心のない人たくさんの人に防災について考えてもらえると思ったからです。</p> <p>・他にも今まで行っていなかったことで、</p> <div data-bbox="523 1668 1401 1982"> </div>	

	<p>ものづくりが好きな方と一緒にパラコードブレスレットを作りながら防災のしゃべりや、パラコードの活用についてお話ししたり、きけんはっけん防災まちがいさがしのツールをただ使うだけでなく、新たに媒体を作って、子どもたちがより危険についてじっくり考えてもらえる準備ができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災団体との情報共有の場として「関西防災交流会」を企画することができ、団体としてうまくいっていることを学び、問題を団体同士と一緒に考え解決していく仲間を作りました</li> <li>・忙しいママのためにオンラインでの防災講座や交流会・勉強会なども開催しました。</li> </ul>	
<p>得られた成果</p>	<p>・ママたちの口コミの効果もあってか、ただ受講するだけではない、自分たちで防災を勉強する「防災部」を立ちあげたいという声をいただき、「あべの親子防災部」を立ち上げ、阿倍野に住むママたちを中心に2か月に1度集まって防災を考える時間をスタートさせました。</p> <p>・行政との連携のおかげで、実現させていただけた講座もたくさんあり、30ものイベントや講座が開催できたのもチャレンジプランのおかげだと思っています。</p> <p>・「ミラクル親子パーク in さんだ」のイベントを楽しみに足を運んでくださった方からの「知らなかったことがしれた」「自分の命を自分で守るために備えを強化しないといけない」なども感想もたくさんいただきました。なんとといっても1番大きな反応があったのは子どもたち（小学生）でした。かえってすぐ実践したというご家庭も本当に多く子どもたちの意識が上がることで、保護者ももっと意識が上がっていくことを実感しました。</p> <p>・団体として知ったことや学んだことを共有する場を作ること、同じ悩みを時間をかけずに解決できたり、さらに加速した活動につながったりできています。</p> <p>・オンラインの導入により、外出しづらい時間でも交流が勉強ができこのシステムは今後も取り入れていきたいツールであると実感しています。</p>	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>大いに</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p>	<p>防災というキーワードだけでは、人が集まらないことを実感しています。いかに、楽しく家族と一緒にできるものであるかで、防災を学んでももらえるのそうでないのかが変わってくると実感しています。</p> <p>SNS などを使っての周知にもイベントや講座の告知だけでなくお役立ち情報などの発信にももっと時間と労力をかけれたらよかった</p>	



	<p>などと思っています。</p> <p>孤立する子育てをどのようにして、地域に巻き込んでいくか、その中でどのように防災啓発を絡ませていくか、それを防災部を各地で行っている団体と連携していくことで一手が見えてくるのではないかと考えています。</p>
--	--

<b>★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について</b>	
関係者の名前・団体名	ほくせつ親子防災部 辻由起子
関係者の説明	ママに伝わる言葉をモットーに各地で防災活動をしている
関係者の連絡先	oyakobousai@hokusetsu.zaq.jp
関係者の名前・団体名	にしよど親子防災部
関係者の説明	生活の中に防災を！西淀川で防災について学びあうネットワーク
関係者の連絡先	taniuchi@aozora.or.jp
関係者の名前・団体名	一般社団法人 codomoto ままちっち
関係者の説明	子どもとの日々を応援する情報サイト運営やひろば運営をしている
関係者の連絡先	050-3708-4807
関係者の名前・団体名	釜淵佳世
関係者の説明	防災士
関係者の連絡先	050-5435-9464

<b>★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ</b>	
伝えたい相手	防災を学びたい・伝えたいママさん
伝えたい内容	<p>一人では悩むことや、行き詰まることもたくさんあるともいます。でも一歩踏み出すことで、誰かが手を差し伸べてくれたり、教えてくれたり、助けてくれたりします。今回このプランにチャレンジすることで、たくさんの出会いと学び、思ってもいない活動が実現することができました。これからも私自身も背中を押していきたいと思います。</p>